

7/4

7/4 県の施策について  
要望活動

**松**

本市長をはじめ、地元選出県議会議員や市議会議員などが県庁を訪れ、県の施策に関する要望書を提出しました。

今回は、①県立図書館の新設・移転②木場スマートインターチェンジ(仮称)の整備支援③一般国道34号大村拡幅の事業促進および大村諫早間の4車線化④二級河川郡川改修事業の促進⑤一般県道大村外環状線の早期整備促進⑥大村飛行場(旧長崎空港A滑走路)周辺地域の航空機騒音対策⑦新たな工業団地の整備支援⑧県有地等へのさくらの植栽の8項目を要望しました。

県知事に要望書を提出



7/4

7/4 長崎がんばらば国体への熱い思い

**長**

崎がんばらば国体大村市実行委員会は、日本に輝いた指導者や有力選手を招いて、トークセッションを市コミセンで開催しました。

これは国体が開催される2014年に向けて気運を高めようと開催したもので、「長崎がんばらば国体にかける熱い思い」をテーマに、大村工業高校バレーボール部の伊藤孝浩監督、同校アーチERY部の尹惠善監督、県スポーツ専門員でボルダリングワールドカップ日本女子代表の江口かおり選手をお招きし、松本市長とともに熱く語り合いました。

2014長崎がんばらば国体に向けたトークセッション



7/9

7/9 工事期間中の安全を祈願

**大**

村市小学校給食センター(仮称)新築工事の起工式が、工事関係者の主催により森園町の現地で行われました。小野副市長をはじめ、約70人が出席し、工事期間中の安全を祈願しました。

給食センターは、鉄骨平屋で床面積は3,425㎡、衛生的で最新の設備を備え、炊飯施設やアレルギー対応食の調理室、見学ルーム、太陽光発電設備を設置するなど、約21億円をかけて建設します。工事は来年3月に完成し試運転を経て、夏休み明けの8月末から市内の全小学校、幼稚園に給食を届ける予定です。

大村市小学校給食センター(仮称)建設起工式



自立できる  
まちづくり



市民会館の舞台袖で鳥越俊太郎氏の講演を聴いていた私は、講師の話すことに共感し、ひと言ひと言にうなずいていました。「がんになつてから健康になりました。それまでは不摂生で不規則な生活をしていましたからね。今、体調いいですよ」

がんが大腸から肺などへ転移、手術も幾度か受けられたというのに仕事をこなし、スポーツジム通いまでやっておられます。私も60歳を過ぎたとき、多発性筋炎のため突如、足を悪くしました。その時から感謝していることでもあります。ちよつとした段差が、足の不自由な人にとってどれほど負担になっているか、以前の私には理解することができませんでした。また、「過度のいたわり」が、むしろ障がいをもつ人々を傷つける時もあることを知りました。この弱者の視点を獲得することができたことは、市長としての幅を広げてくれたと思っています。

地区別ミーティングのある会場で、「住民センターの入り口にはバリアフリーの通路がありますが、手すりがないんです。億円かかるようでしたら、私も言いませんが、ばあちゃんが転ばぬうちにお願います。」と、中年の男性が物静かに発言されました。市の建物は昭和40年代頃に建築されたものが多く、いろいろな問題点がありますが、ようやく松原、福重、鈴田の住民センターにエレベーターを設置しました。「助かりました」との声もあります。まだ周知が足りないとも感じています。今年度は竹松住民センターに設置します。

また、公的な施設ばかりではなくレストランや店舗などにも、まだまだ段差が解消されていない所があります。ユニバーサルデザイン、それは障がいを持つ人、持たない人に限らず大切なことです。誰でも自分でできることは自分でやりたいし、やらなければならぬことです。みんなが自立できるまちづくり、そして自立を支援するための福祉。

「今、健常者を前提としたまちづくりを乗り越えなければならぬ時だ」と私は考えています。